

# はじめにお読みください

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
本書では、以下の項目について説明します。

本書をお読みになる前に	2
簡単な導入と万全の運用	5
ブレードサーバとは	7
本サーバの特長	7
セットアップ	8
サポート & サービス	20
リサイクルについて	22
コンフィギュレーションシート	23
使用許諾契約書	27

## PRIMERGY マニュアルについて

本サーバの主なマニュアルには、以下の種類があります。各マニュアルの概要は以下となっておりますので、必要に応じて参照してください。

梱包物一覧	: 本サーバの梱包物／添付品の一覧を記載しています。
安全上のご注意	: 本サーバを安全に正しくお使いいただくための重要な情報を記載しています。本サーバをお使いになる前に熟読し、理解された上で本サーバをお使いください。
はじめにお読みください (本書)	: 本サーバの開梱から運用までの流れを説明しています。電源を入れる前にお読みください。
ハードウェアガイド	
シャーシ編	: シャーシへの各ブレードの取り付け、および基本操作について説明しています。
サーバブレード編	: サーバブレードへの内蔵オプション装置の取り付け、ハードウェアの設定について説明しています。
スイッチブレード編	: スwitchブレードの設定方法について説明しています。
マネジメントブレード編	: マネジメントブレードの設定方法について説明しています。
ソフトウェアガイド	: OSのインストールからセットアップ、運用までの操作、およびクライアントのセットアップ方法について説明しています。
トラブルシューティング	: ハードウェアおよびソフトウェアに関するトラブルシューティングを記載しています。
ServerViewユーザズガイド	: ServerViewの使用方法を説明しています。
REMCSエージェント運用ガイド	: REMCSエージェントの使用方法を説明しています。
プレインストールドライバ情報	: OSインストールタイプにインストールされているドライバ情報について説明しています。

『梱包物一覧』を除く各マニュアルは、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD の以下から参照できます。

[CD-ROMドライブ]: ¥MANUAL¥INDEX. PDF

各マニュアルは、Adobe Systems 社の Acrobat® Reader® で表示できます。

Acrobat® Reader® は、バージョン 4.0 以降をご利用ください。

なお、Acrobat® Reader® 5.0 は、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD の以下からインストールできます。

[CD-ROMドライブ]: ¥MANUAL¥Setup¥Viewers¥Acrobat5¥ar500.jpn.exe

その他、添付されているドキュメントがある場合には、サーバ設置前に必ずお読みください。

# 本書をお読みになる前に

**安全にお使いいただくために**

このマニュアルには、本サーバを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本サーバをお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解された上で本サーバをお使いください。

また、『安全上のご注意』およびマニュアルは、本サーバの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

**注意**

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会のサーバ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

**本製品のハイセイフティ用途での使用について**

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

本装置は、雷害などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）


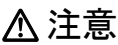
当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

高調波ガイドライン適合品




## 本書の表記

### ■警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

### ■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

- 例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど
- また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。
- 例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:  
          ↑  ↑

- ・↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- ・使用するOSがWindowsまたはMS-DOSの場合は、コマンド入力を英大文字、英小文字のどちらで入力してもかまいません。
- ・ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- ・CD-ROMドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

[CD-ROMドライブ] : ¥setup.exe

■画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いのOS以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記
PRIMERGY BX300	サーバ本体／本サーバ（ブレードサーバシステム全体を示します）
PRIMERGY BX300 シャーシ	シャーシ
PRIMERGY BX300 サーバブレード	サーバブレード
PRIMERGY BX300 スイッチブレード	スイッチブレード
PRIMERGY BX300 マネジメントブレード	マネジメントブレード
Microsoft® Windows® 2000 Server	Windows 2000 Server、Windows
Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	

## ■サーバブレードのタイプの呼び方

本文中のタイプ名を次のように略して表記します。

タイプ	本文中の表記
OS がインストールされていないタイプ。	HD タイプ
HD タイプと区別するときに、OS がインストールされているタイプの総称。	OS インストールタイプ
Windows 2000 Server インストールおよびアレイシステム構成タイプ。 特に断りのない限り、「OS インストールタイプ」に含まれます。	Windows 2000 アレイタイプ
Linux サービスバンドルアレイタイプ。	Linux アレイタイプ

## 警告ラベル／注意ラベル

---

本サーバには警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。

警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel、Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Adobe、Acrobat、Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

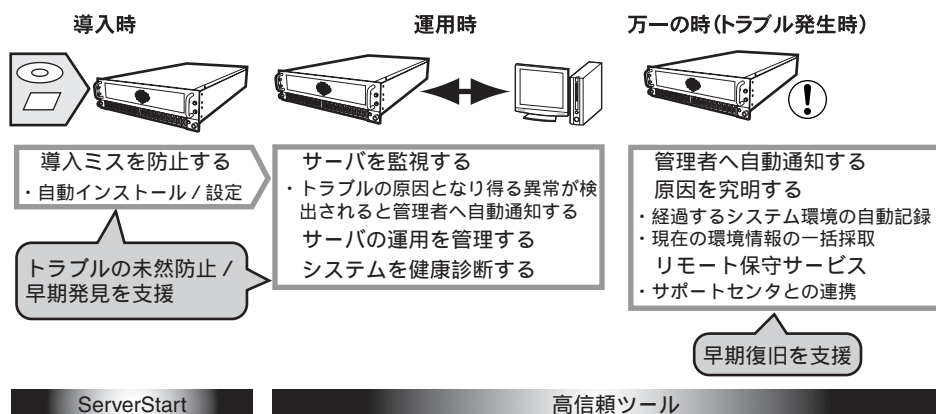
All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2003

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

# 簡単な導入と万全の運用

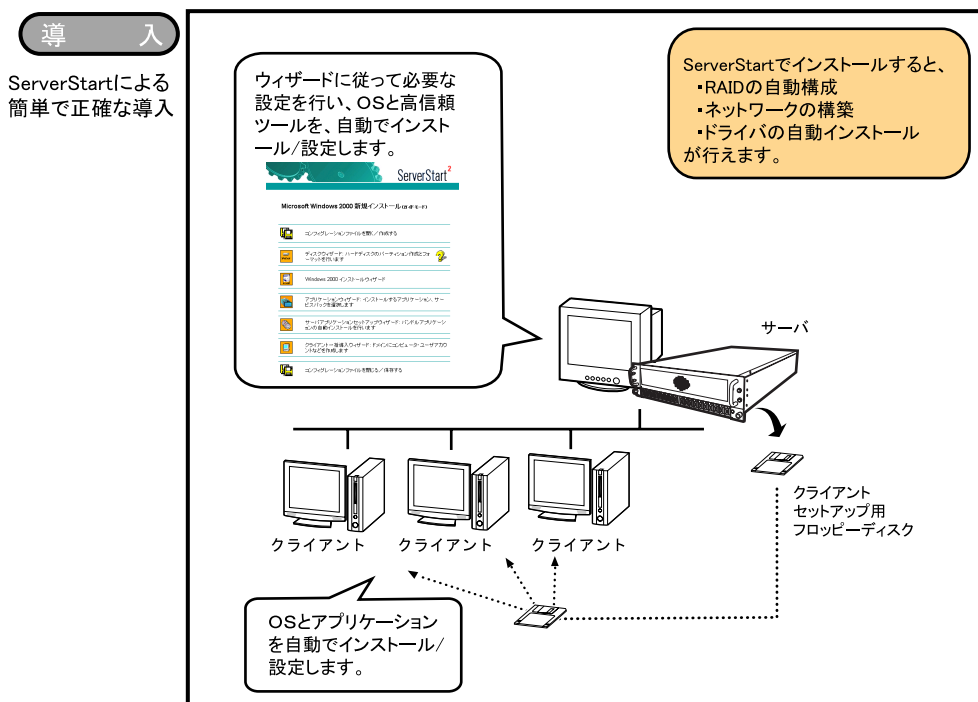
PRIMERGY では、ご購入時にメモリやハードディスクなどのオプション製品を搭載して出荷するカスタマイドサービスを行っています。さらに、ラック搭載サービスやディスクアレイ設定サービスなどを実施するカスタマイドプラスサービスも行っています。これらのサービスによって、導入時における作業と時間を短縮することができます。

また、弊社独自の支援ツール群により、サーバの簡単な導入と、万全な運用・管理を実現しています。



## 導入と運用の概要

PRIMERGY の導入と運用は、ServerStart と高信頼ツールにより、次のように行えます。



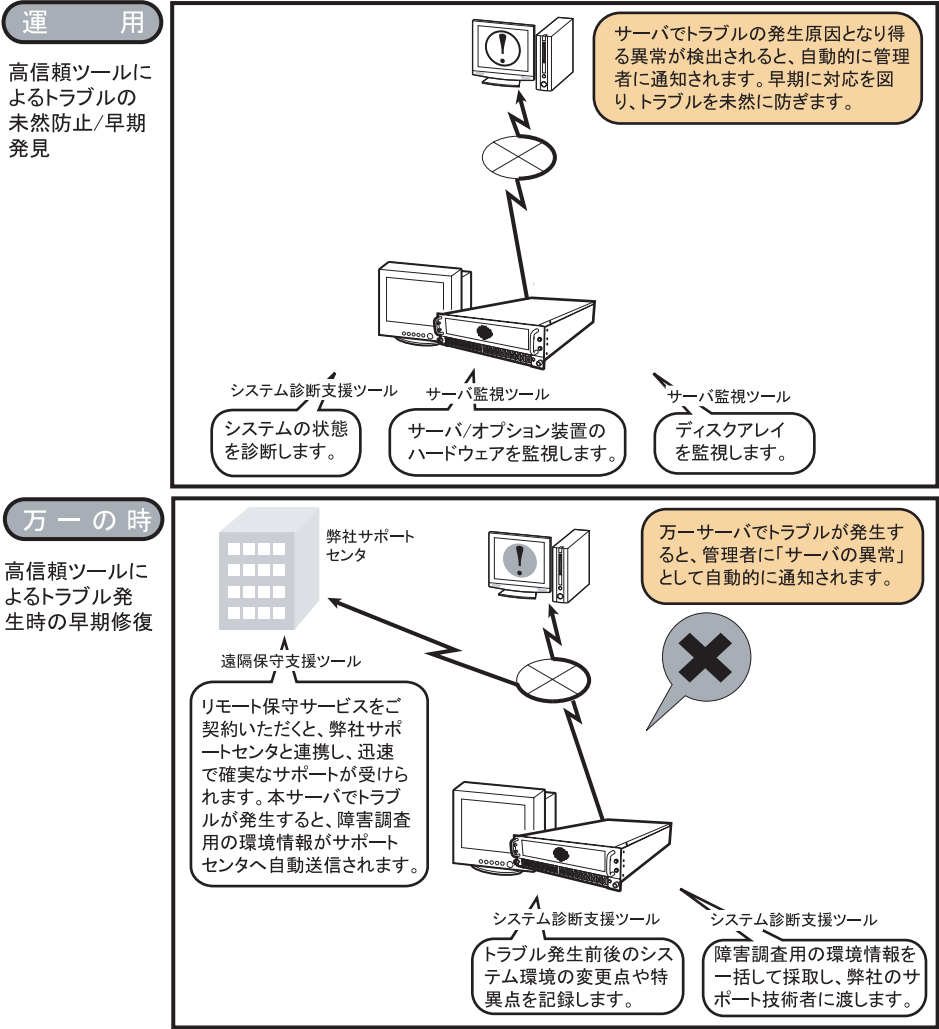
●OS インストールタイプの場合は、ServerStart の「OS インストールタイプの開封」により、スムーズに開封できます。

●リモートインストールをサポートしています (\*).

ネットワーク起動 (PXE) により、サーバブレードに CD-ROM ドライブ、フロッピーディスクドライブを接続しない場合でもインストールを行えます。

\*) リモートインストールを行う場合は、同一ネットワーク上に、ネットワーク起動を行うサーバ (PXE サーバ)、インストールする OS や Service Pack などのリソースを格納するサーバ (リモートリソースサーバ) と、DHCP サービスを行うサーバ (DHCP サーバ) が必要です。

Linux アレイタイプをご購入されたお客様は、サーバ本体に同梱される Linux 関連マニュアルを参照してください。  
また、HD タイプをご購入のお客様で Linux ディストリビューションをご使用のお客様は、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ (<http://www.fmwORLD.net/biz/primergy/>) 内の『ソフトウェア』から『Linux 関連情報』を参照してください。



高信頼ツールについて

高信頼ツールは、サーバ管理において、システムの安定稼動のために総合力を発揮するソフトウェア群です。通常運用時からトラブル発生時の復旧までを次の各ツールが役割を分担します。サーバ監視ツールは必ずインストールしてください。

ツール群	ツール	役割
サーバ監視ツール	ServerView	サーバ異常の早期発見
	RAID 管理ツール	ディスク異常の早期発見
運用管理支援ツール	Chronoworker/S	サーバ同士の時刻合わせ
システム診断支援ツール	FM Advisor	システムの健康診断
	PROBEPRO	トラブル原因の早期発見
	DSNAP	
遠隔保守支援ツール	REMCS エージェント	サポートサービス

高信頼ツールは、ServerStart を使用して OS のインストールを行う際に、同時にインストールできます。各ツールについての概要など、詳細は『ソフトウェアガイド 第 1 章 概要』を参照してください。

# ブレードサーバとは

PRIMERGY BX300 は、本シャーシと各ブレードで構成されるブレードサーバです。

高密度／高集積設計により、高さ 3U (約 13 センチ) のシャーシ内にサーバ、監視装置、LAN スイッチングハブ、電源ユニット、ファンなどを効率よく搭載できる省スペース、省電力サーバです。

ブレードサーバは、以下のものから構成されています。

## ●シャーシ（筐体）

3U サイズのシャーシに、サーバ（サーバブレード）最大 20 台、LAN スイッチングハブ（スイッチブレード）最大 4 台、監視装置（マネジメントブレード）最大 2 台を搭載できます。

## ●サーバブレード（サーバ）

約 120mm × 約 400mm の基板に CPU／メモリ／ハードディスクを搭載したサーバです。

## ●スイッチブレード（LAN スイッチングハブ）

全ポートで Giga LAN をサポートし、データリンク層（レイヤ 2）で動作する LAN スイッチングハブです。ポートは、内部 10 ポート（サーバブレード接続用）、外部接続用 3 ポートがあります。

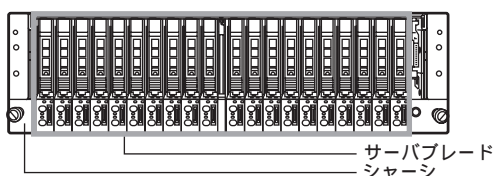
## ●マネジメントブレード（監視装置）

各ブレードおよびシャーシ内の電源／ファン／温度を監視する装置です。

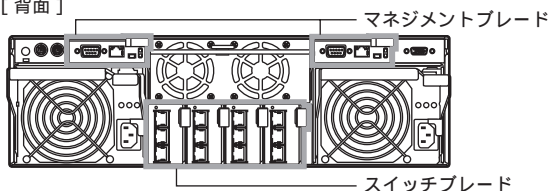
専用の CPU、LAN、シリアルポートを装備し、サーバブレードから独立していますので、安定したシステム稼働を実現します。

また、LAN、シリアルポート経由で、管理端末から各ブレードの遠隔制御や監視が行えます。

[ 前面内部 ]



[ 背面 ]



# 本サーバの特長

本サーバには、以下のような特長があります。

## 高信頼性の実現

### ●冗長機能をサポート

ファン、電源（オプション）、マネジメントブレード（オプション）の冗長構成が可能です。

マネジメントブレードを 2 台搭載し冗長構成にすると、一方はマスタモードでシステム全体を管理し、もう一方はスレーブモードで待機します。この構成では万一マスタのマネジメントブレードに故障が起きてもスレーブのマネジメントブレードが管理を引き継ぐことができるため、システムの運用が止まることはありません。

### ●マネジメントブレードによる監視機能／遠隔操作をサポート

マネジメントブレードにより、各ブレードおよびシャーシ内の電源／ファン／温度を監視することができます。

また、マネジメントブレード経由で管理端末からリモートでシャーシおよび各サーバブレードの電源を入れることができます。

## コンパクトデザイン・拡張性

### ●省電力設計

インテル社製低電圧プロセッサおよび 2.5 インチ内蔵ハードディスクユニットを搭載することにより、省電力化を実現しています。

### ●省スペース設計

19 インチのラックを採用しているため、本体装置、ディスプレイ、キーボード、外部 SCSI 装置などを効率的に収納し、設置場所にスペースをとりません。

## SystemcastWizard Professional (オプション) について

SystemcastWizard Professional (オプション) は、ネットワーク経由でサーバブレードの OS 実行環境をバックアップ／復元することが可能なソフトウェアです。

動作確認済みの OS およびアプリケーションの環境をバックアップすることにより、問題発生時にもサーバブレードの OS・アプリケーション環境の再構築が簡単にできます。

# セットアップ

ここでは、開梱から ServerStart を使ってセットアップするときの運用までの流れを示しています。

以下の手順に従ってセットアップ作業を行ってください。

1	梱包物を確認する	8
2	オプションを取り付ける	8
3	設置場所を確認して設置する	9
4	周辺装置を接続する	12
5	電源を入れてハードウェアを設定する	13
6	ソフトウェアをインストールする	15
7	メモリダンプ用の領域を確保する	17
8	電源を切る	18
9	残りのオプション装置を取り付ける	18
10	システムの状態を確認／退避する	18
11	お客様登録	20

なお、ServerStart を使用して Linux をインストールすることはできません。

## 1 梱包物を確認する

セットアップを開始します。

添付の『梱包物一覧』を参照し、梱包物／添付品がそろっているか確認してください。万一、欠品などがございましたら、担当営業員に連絡してください。

カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合は、添付の『カスタムメイドサービス実装・設定情報』および『構成品一覧』を参照してください。

## 2 オプションを取り付ける

サーバブレードに内蔵オプションを取り付け、シャーシに各ブレード、オプションを取り付けます。

次の場合は、「3 設置場所を確認して設置する」（→ P.9）に進みください。

- OS インストールタイプをご購入された場合
- カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合
- 内蔵オプションを取り付けない場合

### 重要

- ▶ カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合でも、構築するネットワークの構成によっては、搭載されているサーバブレードとスイッチブレードのスロット位置の変更が必要となる場合があります。その場合には本項（「2 オプションを取り付ける」（→ P.8））を参照して、各ブレードのスロット位置の変更を行ってください。  
スロット位置によるサーバブレードとスイッチ

ブレードのネットワーク接続に関しては『ハードウェアガイド シャーシ編』を参照してください。

- ▶ 次のオプションは、ServerStart を使って OS と必須ソフトウェアをインストールしたあとで取り付けてください。以下のオプションを取り付けたままインストール作業を行うと、異常終了することがあります。
  - ・ OS をインストールしないハードディスクユニット

## 準備する

オプションを取り付ける前に、本書および添付の『安全上のご注意』を熟読した上で、以下のものを準備してください。

- プラスドライバーとマイナスドライバー

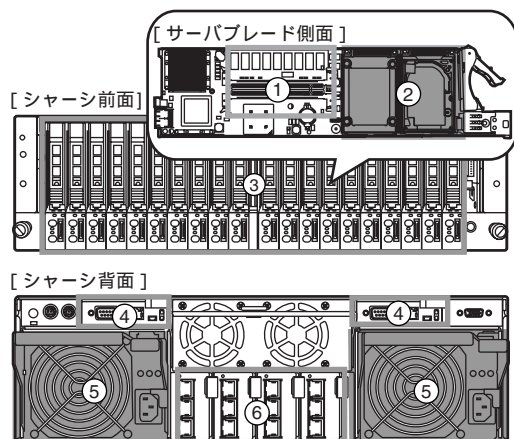
### 重要

- ▶ 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。また、基板表面、半田づけ部、およびコネクタ部には触れないように、金具の部分や基板の縁を持つようにしてください。



## オプションの種類と取り付け位置

サーバブレードの内蔵オプションおよびシャーシに搭載できるオプションの種類と取り付け位置を示します。



- ① メモリ
- ② 内蔵ハードディスクユニット
- ③ サーバブレード
- ④ マネジメントブレード
- ⑤ 電源ユニット
- ⑥ スイッチブレード

実際に内蔵オプションを取り付ける場合は、次のマニュアルを熟読の上、作業を行ってください。

- 『ハードウェアガイド サーバブレード編 第3章 内蔵オプションの取り付け』
- 『ハードウェアガイド シャーシ編 第4章 オプションの取り付け』
- オプション装置に添付のマニュアル

### POINT

- ▶ オプションを搭載後、搭載場所や搭載順序が正しいこと、ケーブルが確実に接続されていることを確認してください。

## 3 設置場所を確認して設置する

『安全上のご注意』を熟読の上、本サーバを設置します。

### 設置場所の条件

本サーバを設置するときは、以下の場所は避けてください。

- 湿気やほこり、油煙の多い場所
- 通気性の悪い場所
- 火気のある場所
- 風呂場、シャワー室など、水のかかる場所
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所
- 周囲温度が 10 ～ 35℃ をはずれる場所
- 湿度が 20 ～ 80% をはずれる場所
- 塩害地域

- 腐食性ガスが発生する地域
- 電源ケーブルなどのケーブルが足にひっかかる場所
- テレビやスピーカーの近くなど、強い磁気が発生する場所
- 振動の激しい場所や傾いた状態など、不安定な場所

項目		設置条件
温度	動作時	10 ～ 35℃
	休止時	-5 ～ 55℃
湿度	動作時	20 ～ 80%RH(結露しないこと)
	休止時	
温度勾配	動作時	15℃/hr 以下(結露しないこと)
	休止時	
AC 入力条件	電圧	AC100 ～ 120V AC200 ～ 240V (*)
	周波数	50/60Hz
浮遊塵埃		0.15mg/m <sup>3</sup> 以下

(\*) オプションの電源ケーブル (AC200V 対応) が必要になります。

### 重要

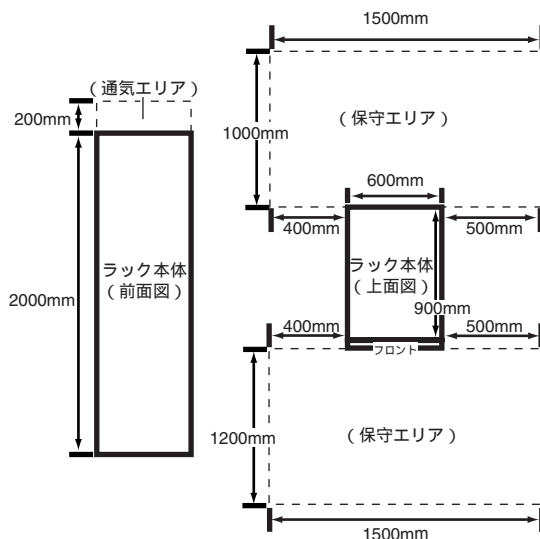
- ▶ 本サーバは、一般的な事務所への設置を考慮しています。静粛性を必要とする場所でのご使用時には、できる限り人とサーバ本体の設置場所を離すようにご配慮願います。

## 設置スペース

本サーバはラックに搭載して運用します。

ラックを設置するときは、放熱と保守用にスペースが必要です。次のスペースを確保してください。

なお、ラックマウントタイプの説明は 40U のスリムラックを元としています。その他のラックの設置スペースについては、ラックに添付の取扱説明書を参照してください。



## ラックを設置する

サーバを搭載するラックを設置します。詳細は、『ラック設置ガイド』を参照してください。

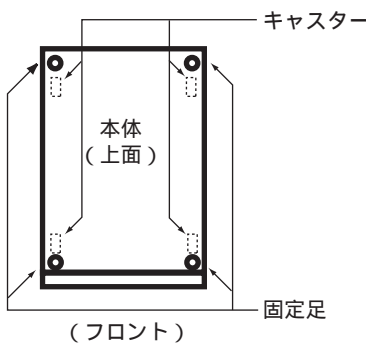
なお、ラックの固定と転倒防止用スタビライザの取り付けは必ず行ってください。

### ■ラックの固定

ラック設置後、ラックの底面にある固定足でラックを固定してください。

キャスターだけで長時間固定すると、キャスターが破損・変形します。

固定足を使用し、キャスターを床面から 2mm 以上あげて固定します。



### ■転倒防止用スタビライザの取り付け

ラック固定後、ラックに転倒防止用スタビライザを取り付けてください。

#### ⚠ 警告

- 転倒防止用のスタビライザは、設置時に必ず取り付けてください。



取り付けない状態でラック内部のサーバ本体を引き出すと、ラックが転倒するおそれがあります。

以下に、転倒防止用スタビライザの取り付け手順を示します。

- 1 ラックを設置し、ラック底面にある固定足でラックを固定します。

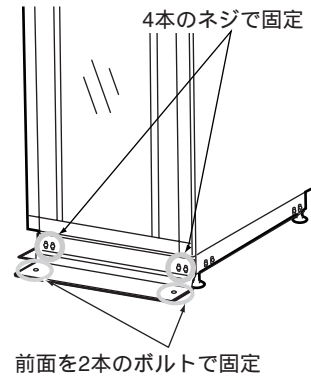
→ 「■ ラックの固定」 (P.10)

### 2 スタビライザを取り付けます。

スタビライザを 4 本のネジ (スタンダードラックの場合は 2 本のネジ) でラックに取り付けます。

次に、スタビライザを床面に固定します。スタビライザは、2 本のボルトで床面に固定します。

なお、床面に固定するボルトは、別途必ず購入する必要があります。



#### POINT

- ▶ オプションとして、側面と背面のスタビライザもあります。

## 設置

### ■サーバ本体のラックへの搭載手順

ここでは、サーバ本体をラックに搭載する手順について説明します。

#### 👉 重要

- ▶ サーバ本体をラックに搭載したりラックから取り外す場合は、担当保守員に連絡してください。

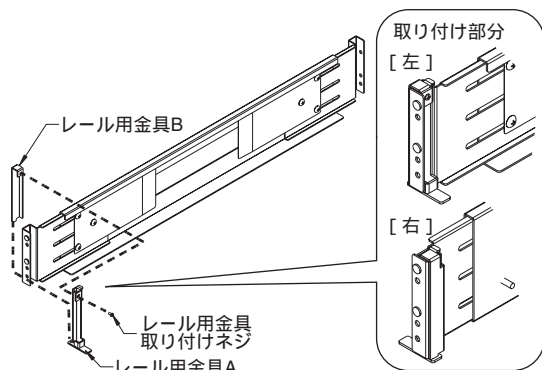
### ●ラックマウントキットの梱包物を確認する

以下のリストに従って部品がすべてそろっているかどうかを確認し、万一足りない部品があった場合は担当営業員に連絡してください。

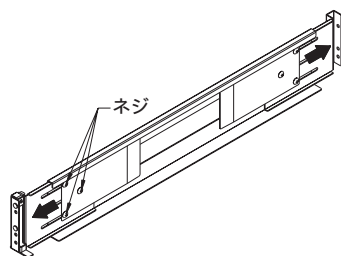
部品	
□ スライドレール : 2	
□ レール用金具 A : 左右各 1 [ 左 A ] [ 右 A ]	
□ レール用金具 B : 左右各 1 [ 左 B ] [ 右 B ]	
□ レール取り付けネジ : 10	
□ レール用金具取り付けネジ : 2	

## ●搭載手順

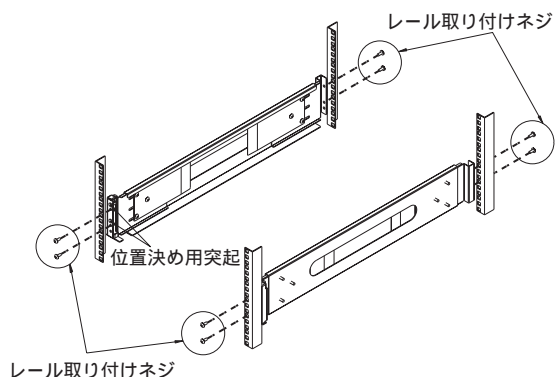
- 1 ラックのフロントドアとリアドアを開けます。  
→『ハードウェアガイドシャーシ編 第3章 基本的な操作』
- 2 スライドレールに、レール用金具を取り付けます。  
レール用金具 A と B でスライドレールを挟むようにして、レール用金具取り付けネジで固定します。



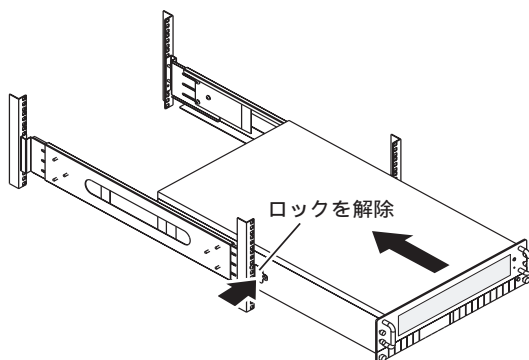
- 3 レールをラックの長さに合わせます。  
レールのネジをゆるめ、ラックの長さに合わせます。  
レールのネジを軽くしめます（ここで強くしめると、手順3でレールを正しく固定できなくなります）。



- 4 レールをラックに取り付けます。  
それぞれの取り付け位置は、次の図のとおりです。レール用金具がラック前面に、またレールの位置決め用突起がラックの柱角穴にくるように取り付けてください。  
各レールは、前面から2本、背面から2本のレール取り付けネジでラックに取り付けます。  
手順2で軽くしめたネジをしめ、レールを固定します。



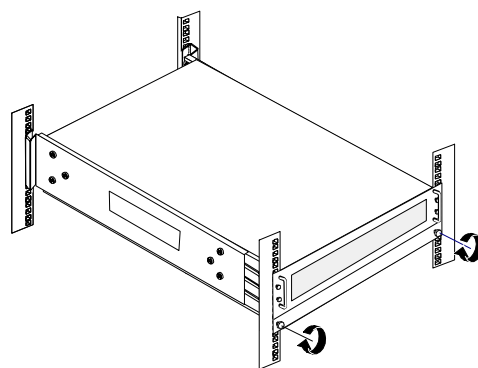
- 5 サーバ本体をラックに取り付けます。  
レールにサーバ本体を載せ、サーバ本体を後方にスライドさせてラックに搭載します。  
なお、レールにはロック機構があります。  
ロック機構はサーバ本体を引き出すときにのみ働くものであり、搭載するときはロックを解除する必要はありません。ただし、サーバ本体を引き出すときは、図のようにロックを解除してください。



## 重要

- ▶ サーバ本体を持ち上げるときは、必ず2人以上で作業してください。
- ▶ フロントファンユニットの取っ手はサーバ本体を持ち上げるときに使用しないでください。また、シャーシを引き出す際にフロントファンユニットの取っ手を持つ場合、フロントファンユニットのネジがしっかり締まっていることを確認してください。

- 6 サーバ本体とラックを固定します。  
サーバ本体とラックを2本のネジで固定します。



## 重要

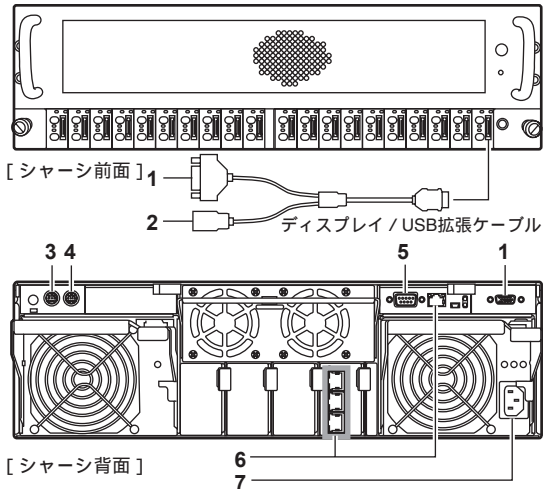
- ▶ サーバ本体および周辺装置が搭載されていない場所には、ラックに添付のブランクパネルを取り付けてください。

## 4 周辺装置を接続する

サーバ本体にキーボードやマウスなどの周辺装置を接続します。

『安全上のご注意』を熟読の上、周辺装置を接続します。

### 接続全体図



- 1 ディスプレイ
- 2 フロッピーディスクドライブ／CD-ROM ドライブ
- 3 キーボード
- 4 マウス
- 5 RS-232C クロスケーブル
- 6 LAN ケーブル
- 7 電源ケーブル

#### 重要

- ▶ 電源ケーブルは、各周辺装置の接続が終了してから接続してください（USB 接続機器を除く）。

#### POINT

- ▶ キーボード／ディスプレイ／マウス（KVM）をシャーシのコネクタに接続した場合、各サーバブレードの KVM 出力がシャーシ内の切り替え機を通して接続されます。切り替え方法については『ハードウェアガイド シャーシ編 3.6 KVM 切り替えについて』を参照してください。

## 電源ケーブルの接続

すべての周辺機器を接続したら、最後にシャーシに搭載されている電源ユニットに電源ケーブルを接続します。

電源ケーブルには次の 2 種類があります。

- ・ AC100V 対応ケーブル（本サーバ標準添付）
- ・ AC200V 対応ケーブル（オプション）

### 注意

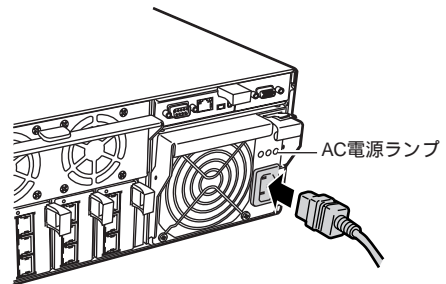
- ・ 電源ケーブルは、ケーブルの電圧の種類に合った電源に接続してください。また、タコ足配線をしないでください。故障・火災の原因となります。

### 警告

- ・ 電源ユニットが冗長構成の場合、電源ケーブルの種類を混在させないでください。

### ■接続手順

- 1 電源ケーブルをシャーシに搭載されている電源ユニットに接続します。  
電源ケーブルのプラグを、電源ユニットのインレットに接続します。



- 2 電源ケーブルをコンセントに接続します。  
もう片方のプラグを、コンセントに接続します。  
電源ユニットの AC 電源ランプが点灯することを確認してください。

#### 重要

- ▶ 電源ケーブルを接続すると、スタンバイ電源がマネジメントブレードに供給され、監視動作が開始されます。

## フロッピーディスクドライブ／CD-ROMドライブの接続

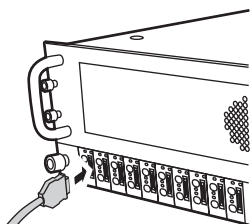
本サーバではサーバブレードとディスプレイ／USB 拡張ケーブルを使用することで、USB インタフェースを持ったフロッピーディスクドライブおよび CD-ROM ドライブを接続できます。

### 重要

- ▶ USB フロッピーディスクドライブは同時に 11 個以上接続できません。

### POINT

- ▶ ディスプレイ／USB 拡張ケーブルを使用しての周辺機器の接続は、電源ケーブルの接続後でも可能です。
  - ▶ 本サーバを搭載したラックと、フロッピーディスクドライブまたは CD-ROM ドライブの距離を離して使用する場合は、添付の延長ケーブルを使用してください。
- 1 CD-ROMドライブを接続する場合は、CD-ROMドライブの電源ケーブルをコンセントに接続します。
  - 2 ディスプレイ／USB 拡張ケーブルをサーバブレードのディスプレイ／USB 拡張コネクタに接続します。  
ディスプレイ／USB 拡張ケーブルのコネクタの切り欠きの向きを合わせて、サーバブレードのディスプレイ／USB 拡張コネクタに確実に接続します。



- 3 フロッピーディスクドライブまたは CD-ROM ドライブとディスプレイ／USB 拡張ケーブルを接続します。  
フロッピーディスクドライブまたは CD-ROM ドライブの USB コネクタをディスプレイ／USB 拡張ケーブルの USB コネクタに接続します。

## 5 電源を入れてハードウェアを設定する

本サーバを正常に動作させるため、ハードウェアを設定します。

### マネジメントブレードの設定／シャーシのメイン電源を入れる

シャーシのメイン電源を入れる前に、マネジメントブレードに対してパスワードなどの初期設定を行います。冗長構成の場合、設定された値はマスタとスレーブのマネジメントブレードで共有されます。設定の詳細については『ハードウェアガイド マネジメントブレード編 2.3 初期設定』を参照してください。

### POINT

- ▶ マネジメントブレードの設定には、Web ブラウザやターミナルソフトウェアが動作する管理端末が必要になります。管理端末をシリアルインタフェースまたは LAN インタフェースを使用してマネジメントブレードに接続してください。詳細については『ハードウェアガイド マネジメントブレード編 2.3 初期設定』を参照してください。

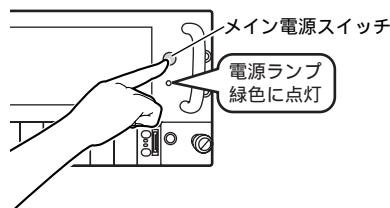
### 重要

- ▶ パスワードの設定は必ず行ってください。
- ▶ マネジメントブレードの時刻の確認・設定を必ず行ってください。
- ▶ マネジメントブレードで行った各種の設定は画面のハードコピーやメモなどで退避を行ってください。設定の復元や保守時に必要になります。

設定が終了したら、シャーシ前面のメイン電源スイッチを押してシャーシのメイン電源を入れます。

- 1 ラックドアを開けます。
- 2 ディスプレイや周辺装置の電源を入れます。
- 3 シャーシ前面のメイン電源スイッチを押します。

シャーシの電源ランプが緑色に点灯するまで押し続けます。



### 重要

- ▶ ここではサーバブレードの電源は入れないでください。
- ▶ シャーシのメイン電源は電源ケーブルを接続してから、2分以上たったあとに入れてください。
- ▶ シャーシのメイン電源を入れた直後にファンが高速回転しますが、故障ではありません。サーバ本体環境条件の温度条件（10～35℃）の範囲内であれば、しばらくしてから、通常の回転になります。

### POINT

- ▶ シャーシのメイン電源を入れるとシステムファンユニットとスイッチブレードが起動します。スイッチブレードが完全に起動するまで約1分かかります。また、サーバブレードには通電が開始されますが、サーバブレードの電源を入れるまで起動しません。

## スイッチブレードの設定

シャーシのメイン電源を入れたら、搭載されているスイッチブレードそれぞれに対してパスワードなどの初期設定を行います。設定の詳細については『ハードウェアガイド スwitchブレード編 1.8 初期設定』を参照してください。

### 重要

- ▶ パスワードの設定は必ず行ってください。
- ▶ スwitchブレードで行った各種の設定は退避を行ってください。設定の復元や保守時に必要になります。
- ▶ VLANの設定はここでは行わないでください。設定する場合は運用を開始する前に行ってください。

## サーバブレードの設定

サーバブレードの電源を入れ、必要に応じてBIOSやオンボードIDEアレイのユーティリティの設定を行います。サーバブレードの設定は搭載されているブレードごとに行ってください。

サーバブレードの電源の入れ方については「サーバブレードの電源を入れて ServerStart CD-ROM をセットする」(→ P.15)を参照してください。

### 重要

- ▶ 電源を入れた直後、必ず ServerStart CD-ROM をセットしてください。
- ▶ 通常、ハードウェアの設定は、ご購入時設定値から変更する必要はありません。「2 オプションを取り付ける」(→ P.8)でオプション装置を取り付けた場合のみ、各ユーティリティ(BIOS セットアップユーティリティまたは FastBuild ユーティリティ)を起動して、ハードウェアの設定を確認／変更してください。

### ■BIOS セットアップユーティリティについて

次の場合に設定を変更します。

- 本サーバを起動するドライブを変更する場合
- POST 中にメッセージが表示された場合
- 本サーバにパスワードを設定する場合
- OS を変更するとき

### ■Fast Build ユーティリティについて

次の場合に設定を変更します。

- IDE アレイシステムを構築／参照／削除する場合
- 接続されたハードディスクの情報を参照する場合
- 故障したハードディスクを交換後にリビルドを行う場合

### 重要

- ▶ Windows 2000 Server を手動でインストールする場合は、インストールの前にオンボードIDEアレイコントローラ配下にアレイ構成が作成されている必要があります。ハードディスクユニットを1台だけ搭載している場合は、RAID 0のアレイを構成してください。RAID 1のアレイを構成する場合は、アレイを構成したあと、必ずハードディスクの初期化を行ってください。ハードディスクの初期化はバックグラウンド処理で行うこともできます。
- ▶ Linux アレイタイプをご購入されたお客様は、これ以降の作業については、サーバ本体に同梱されるLinux 関連マニュアルを参照してください。

また、HD タイプをご購入のお客様でLinux ディストリビューションをご使用のお客様は、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のPRIMERGY 向けホームページ (<http://www.fmwORLD.net/biz/primergy/>) 内の『ソフトウェア』から『Linux 関連情報』を参照してください。

Linux のセットアップ終了後は、「10 システムの状態を確認／退避する」(→ P.18) から参照してください。



## サーバブレードの電源を入れて ServerStart CD-ROM をセットする

### 重要

- ▶ 電源を入れる前に、ソフトウェアをインストールするサーバブレードに CD-ROM ドライブおよびフロッピーディスクドライブが接続されていること、シャーシにディスプレイが接続されていることを必ず確認してください。フロッピーディスクドライブ／CD-ROM ドライブの接続方法については、「フロッピーディスクドライブ／CD-ROM ドライブの接続」(→ P.13) を参照してください。
- ▶ OS インストールタイプの場合で、ServerStart CD-ROM をセットせずにハードディスクから OS を起動してしまった場合は、絶対にセットアップをキャンセルしたり、サーバ本体の電源を切ったりしないでください。この場合、必ずセットアップを継続／完了させてください。ServerStart を使用せずにセットアップを継続／完了する方法については、『ソフトウェアガイド 付録 B.1 OS インストールタイプの手動開封』を参照してください。

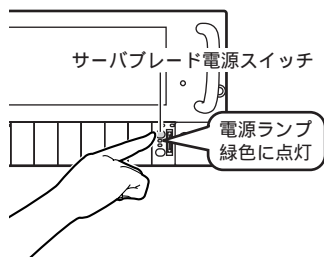
### ■手順

#### 1 ServerStart CD-ROM を準備します。

ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットできるように準備します。

#### 2 サーバブレードの電源を入れ、ServerStart CD-ROM をセットします。

サーバブレードの電源スイッチを押します。



すぐに、ServerStart CD-ROM をセットします。

#### 3 オプション装置を取り付けた場合、各ユーティリティを起動してハードウェアを設定します。

##### ・ BIOS セットアップユーティリティの起動

「Press <F2> to enter SETUP」と表示されたら、メッセージが表示されている間に、【F2】キーを押します。

##### ・ FastBuild ユーティリティの起動

「Press <Ctrl-F> to enter FastBuild(tm) Utility」と表示されている間に【Ctrl】+【F】キーを押します。

各ユーティリティの詳細については『ハードウェアガイド サーバブレード編 第4章 ハードウェアの設定について』を参照してください。

各ユーティリティを終了すると、本サーバが再起動します。

#### 4 ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

「6 ソフトウェアをインストールする」(→ P.15) にお進みください。

## 6 ソフトウェアをインストールする

OS インストールタイプの場合は、「OS インストールタイプの開封」(→ P.16) を行ってください。それ以外の場合は「ガイドモードでインストールする」を行ってください。

ガイドモード以外のインストール方法については、『ソフトウェアガイド 第3章 サーバのインストール』を参照してください。

### POINT

- ▶ サーバブレードに CD-ROM ドライブ、フロッピーディスクドライブを接続しない場合は ServerStart のリモートインストール機能が使用できます。詳細は『ソフトウェアガイド 第3章 サーバのインストール』を参照してください。

### ガイドモードでインストールする

ガイドモードでは、ウィザードに従って設定を行い、サーバに OS と高信頼ツールをインストールします。

#### 1 フロッピーディスクドライブに、ServerStart フロッピーディスクをセットして「作成」をクリックします。

ServerStart フロッピーディスクの作成画面が表示されます。

#### 2 「ServerStart フロッピーディスクを作成する」をクリックします。

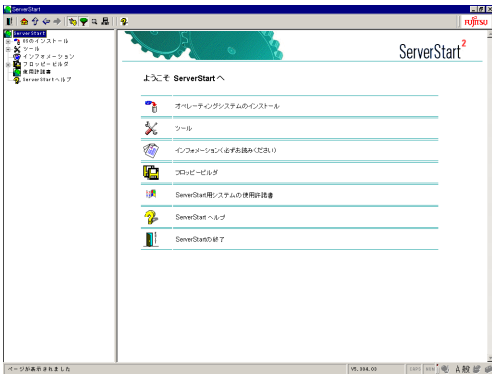
「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか?」のメッセージが表示されます。

#### 3 「はい」をクリックします。

ServerStart フロッピーディスクが作成され、作成が完了するとメッセージが表示されます。

**4** [OK] をクリックします。

ServerStart のメイン画面が表示されます。



**5** [オペレーティングシステムのインストール] をクリックします。

**6** [Microsoft Windows Operating System のインストール]  
をクリックします。

**7** インストールする OS をクリックします。

**8** [(OS) のインストーラーガイドモード] をクリックします。

選択した OS のガイドモードが起動します。

(Windows 2000 Server を選択した場合の画面例)



**9 「コンフィグレーションファイルを開く／作成する」をクリックします。**

ファイル名 "SerStartBatch. ini"を確認し、[作成] をクリックします。

**10** 順番にウィザードをクリックして、サーバ情報を入力していきます。各ウィザード画面の **[?]** をクリックすると、項目の説明や、設定のヒントが表示されます。各ウィザードについて、詳細は『ソフトウェアガイド 3.2 ガイドモード』を参照してください。

## 1. RAID ウィザード

オンボード IDE RAID の設定を行います。

## 2. ディスクウィザード

ハードディスクの区画作成と、フォーマットを行います。

### 3. (OS) インストールウィザード

コンピュータ情報、ユーザ情報、ネットワークプロトコルなどを設定します。

#### 4. アプリケーションウィザード

クライアントセットアップのための WizardConsole  
や、高信頼ツールのインストールを設定します。

## 5. クライアント一括導入ウィザード

アプリケーションウィザードで WizardConsole をインストールした場合に、クライアントのセットアップ情報を設定します。

**11** [コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する]  
をクリックします。

ファイル名 **"SerStartBatch. ini"** を確認し、[保存] をクリックします。

**12** [(OS) のインストールを開始する] をクリックします。

**13** [開始] をクリックします。

画面の指示に従って操作します。OS の CD-ROM をセット後、使用許諾画面が表示されます。

画面の指示に従って操作してください。

**重要**

- ▶ 設定した内容に誤りがあると、エラーが表示されます。正しい値を直接入力して、処理を続行してください。
- ▶ ファイルコピーが終了すると、CD-ROM およびフロッピーディスクを抜くよう、メッセージが表示されます。必ず指示に従って、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出してください。

すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。これでインストールは終了です。

OS インストール後、サーバを運用する前に、『ソフトウェアガイド 第4章 OS インストール後の操作』を参照し、必要な設定を行ってください。

## OS インストールタイプの開封

OS インストールタイプの開封を行います。高信頼ツールのインストールも自動的に行えます。

- 1 フロッピーディスクドライブに、添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして [作成] をクリックします。

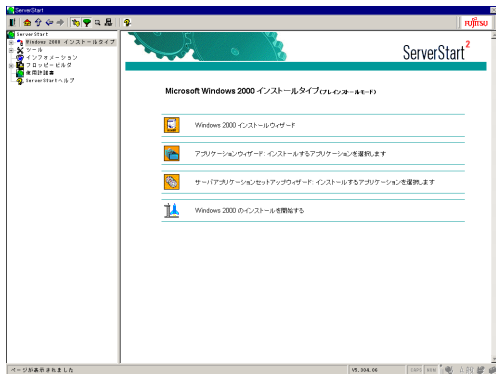
OSインストールタイプの開封を行うか、新規インストールを行うかのメッセージが表示されます。

**2** [OK] をクリックします。

ServerStart フロッピーディスク作成画面が表示されます。



- 3 [ServerStart フロッピーディスクを作成する] をクリックします。  
「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか？」のメッセージが表示されます。
- 4 [はい] をクリックします。  
ServerStart フロッピーディスクが作成され、作成が完了するとメッセージが表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 ご購入のタイプに応じた [(OS) インストールタイプの設定] をクリックします。  
プレインストールモードが起動します。  
(Windows 2000 Server の場合の画面例)



- 7 順番にウィザードをクリックして、OS インストールタイプの開封情報を入力します。各ウィザード画面の **[?]** をクリックすると、項目の説明や、設定のヒントが表示されます。  
各ウィザードの設定について、詳細は『ソフトウェアガイド 3.1 OS インストールの開封』を参照してください。
  1. (OS) インストールウィザード  
コンピュータ情報、ユーザ情報、ネットワークプロトコルなどを設定します。
  2. アプリケーションウィザード  
クライアントセットアップのための WizardConsole や、高信頼ツールのインストールを設定します。
- 8 「(OS) のインストールを開始する」をクリックします。  
使用許諾画面が表示されます。  
画面の指示に従って操作してください。

### 重要

- ▶ 設定した内容に誤りがあると、エラーが表示されます。正しい値を直接入力して、処理を続行してください。
- ▶ インストール途中、アプリケーションの CD-ROM をセットするようにメッセージが表示された場合は、指示に従って、CD-ROM をセットしてください。また、サーバのインストール途中は、再起動は行わないでください。すべての処理が終了し、再起動する場合は、必ず CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出してから再起動してください。

すべての処理が終了すると、OS が起動します。これでインストールタイプの開封は終了です。  
OS インストール後、サーバを運用する前に、『ソフトウェアガイド 第4章 OS インストール後の操作』を参照し、必要な設定を行ってください。

## 7 メモリダンプ用の領域を確保する

メモリダンプを取得するための設定を行います。メモリダンプの設定をしておくと、STOP エラー（致命的なシステムエラー）が発生した場合に、自動的にデバッグ情報が保存されます。保存されたメモリダンプにより、エラー発生時の原因を分析するのに役立ちます。  
メモリダンプを取得するには、ページングファイルとメモリダンプファイルの作成用に、次のディスク空き容量が必要です。

### ● Windows 2000 Server の場合

種類	ページングファイル (*1)	メモリダンプファイル (*2)
最小メモリダンプ (64KB)	2MB 以上	64KB
カーネルメモリダンプ	搭載メモリサイズによって、50 ～ 800MB	
完全メモリダンプ	搭載メモリ容量 × 1.3	搭載メモリ容量

- \*1) システムがインストールされているドライブに必要な空き容量  
ページングファイルは、OS インストール時に作成されます。ファイル名は、「PAGEFILE.SYS」となります。
- \*2) 任意のドライブに必要な空き容量  
メモリダンプファイルは、STOP エラー発生時にしか作成されません。STOP エラー発生時に空き容量がなくなっていないように常に確保しておいてください。

設定方法については、『ソフトウェアガイド 第4章 OS インストール後の操作』を参照してください。

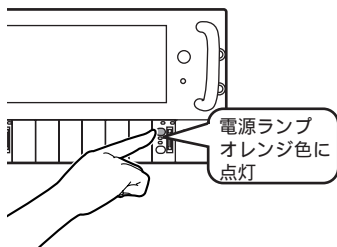
## 8 電源を切る

いったん電源を切ります。

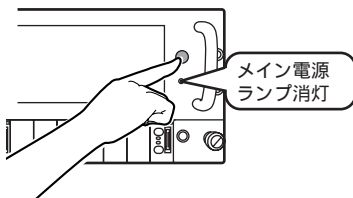
### 重要

- ▶ 次の操作手順で電源を切ってください。操作手順に反すると、データが破壊されるおそれがあります。ただし、サーバブレードの内蔵オプションを取り付ける場合は、該当するサーバブレードの電源を切ればシャーシや他のサーバブレードの電源が入っていてもかまいません。
- ▶ サーバブレードの電源を切ったあと、再度電源を入れるときは 10 秒以上待ってから電源スイッチを押してください。電源を切ったあとすぐに電源を入れると、サーバ本体の誤動作、および故障の原因になります。
- ▶ サーバブレードの電源を切ったあとにサーバブレードをシャーシから取り外す場合、またはシャーシの電源ケーブルを取り外す場合は、20 秒ほど待ってから作業を行ってください。

- 1 各サーバブレード上で動作している OS を終了します。  
OS 終了後、サーバ本体の電源が自動的に切れ、サーバブレードの電源ランプがオレンジ色に点灯します。  
OS を終了してもサーバ本体の電源が切れない場合は、サーバブレード本体前面の電源スイッチを押します。



- 2 シャーシ前面のメイン電源スイッチを押します。  
シャーシのメイン電源ランプが消灯するまで押し続けます。



- 3 ディスプレイなどの周辺装置の電源を切ります。

## 9 残りのオプション装置を取り付ける

UPS 装置や「2 オプションを取り付ける」(→ P.8) で取り付けられなかったオプション装置を取り付けます。  
すべてのオプション装置が接続されている場合は、「10 システムの状態を確認／退避する」(→ P.18) へお進みください。

### POINT

- ▶ オプション装置の取り付け終了後、必要に応じてスイッチブレードの VLAN やサーバブレードの BIOS セットアップユーティリティ、FastBuild ユーティリティの設定を行ってください。設定方法は、『ハードウェアガイド スイッチブレード編 第3章 スイッチの設定』、『ハードウェアガイド サーバブレード編 第4章 ハードウェアの設定について』を参照してください。

## 10 システムの状態を確認／退避する

すべての設定が終了したら、システムの状態を確認するとともに、システムの設定情報を退避します。

### システムの設定内容と状態を確認する

ハードウェアの接続やソフトウェアの設定が正しく行われているか確認してください。

また、運用を開始する前に、特に注意していただきたい点を以下に示します。

#### ●OS インストールタイプに関する留意事項

- ・ 主要インストールドライバの情報を『ブレイクインストール ドライバ情報』に記載しています。
- ・ ハードディスクの区画は、以下のとおり作成してあります。
  - ・ システム区画：4GB

#### ●Linux アレイタイプに関する留意事項

システム区画については、サーバ本体に同梱される Linux 関連マニュアルを参照してください。

#### ●ServerView のインストール

運用を開始する前に、ServerView を必ずインストールしてください。

→「6 ソフトウェアをインストールする」(P.15)

→『ソフトウェアガイド 第5章 高信頼ツール』

#### ●メモリダンプを取得するための設定

メモリダンプを取得するための設定を行ってください。  
→『ソフトウェアガイド 第4章 OSインストール後の操作』

#### ●BIOS セットアップユーティリティの変更

BIOS セットアップユーティリティについては、『ハードウェアガイド サーバブレード編 第4章 ハードウェアの設定について』を参照してください。

### ●ServerView インストール後の起動監視設定

ServerView をインストール後、「起動監視」の機能を有効に設定することをお勧めします。『ServerView ユーザーズガイド 3.2.4 異常発生時の対処 (ASR) 』の「[[再起動設定] タブ」をご覧ください。

### ●UPS のシャットダウン時間の設定

UPS の電源切断時間 (シャットダウン指示から電源切断までの時間) は、十分な時間を設定してください。

この時間が短いと、システムがシャットダウンする前に電源が切れてしまい、データが破壊されるおそれがあります。詳細は UPS に添付のマニュアルを参照してください。

使用する UPS	参照
NetpowerProtect	「システムシャットダウン時の注意事項について」

### ●コンフィグレーションシートへの記入

本書の「コンフィグレーションシート」(→ P.23) および『ハードウェアガイド サーバブレード編 6.4 コンフィグレーションシート』に、ハードウェア構成や BIOS セットアップユーティリティなどの設定値を記入してください。

#### 重要

- ▶ 記入したシートは、紛失しないように大切に保管してください。システムに異常が発生した場合やオプションの増設時に必要になります。

## システムの設定情報を退避する

内蔵バッテリーの消耗によって、BIOS セットアップユーティリティで設定した情報が失われることがあります。システム情報を退避しておくことによって、失われた設定情報を元の状態に復元できます。

→ 『ハードウェアガイド サーバブレード編 第 4 章 ハードウェアの設定について』

退避手順を以下に示します。

### 1 ServerStart CD-ROM から、ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを作成します。

1. CD-ROM ドライブおよびフロッピーディスクドライブが接続されている状態でサーバブレード本体の電源を入れ、ServerStart CD-ROM をセットします。  
「フロッピーディスクドライブに、ServerStart フロッピーディスクを挿入してください」というメッセージが表示されます。
2. ServerStart に添付の ServerStart フロッピーディスクを本体にセットして、[作成] をクリックします。

3. [ServerStart フロッピーディスクを挿入し ServerStart を起動する] をクリックします。  
ServerStart の画面が表示されます。
  4. ServerStart フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出します。
  5. [フロッピービルダ] をクリックします。  
フロッピービルダの画面が表示されます。
  6. [ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成] をクリックします。  
メッセージに従って、本サーバに添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットしてください。
  7. 以降は画面のメッセージに従い、ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを作成します。
- 2 画面左上の [Exit] ボタンをクリックし、メッセージに従い ServerStart CD-ROM とフロッピーディスクを抜きます。



サーバが再起動します。POST が終了する前に、ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクをセットします。

Startup Menu が表示されます。

- 3 「7. Server Management Tools for BX300」を選択し、[Enter] キーを押します。  
DOS プロンプトが表示されたら、フロッピーディスクを取り出します。
- 4 Server Management Tools フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。  
以下のコマンドを入力して、システム情報を退避します。

A:\>read.bat [Enter]

## 11 お客様登録

最後に、お客様登録をお願いします。

PRIMERGY では、お客様登録をお願いしています。お客様登録を行っていただくことにより、お客様への保守サービスが円滑に実施されます。

お客様登録の方法は、本サーバに添付の保証書に記載されています。登録方法には、以下の3つがあります。

- レジストレーション登録（リモート接続による登録）
- Web 登録（<http://www.fujitsu-osc.ne.jp/register>）
- Fax 登録

お客様登録をされた場合とされない場合とでは、無償修理期間が以下のとおり異なります。

- お客様登録をされた場合  
ご購入後 1 年間
- お客様登録をされない場合  
ご購入後 3 か月間

これで運用のための準備が終了しました。

運用開始後は、未然にトラブルを防止するためにも定期的にサーバ本体などのお手入れを行ってください（→『ハードウェアガイド シャーシ編 第 5 章 保守について』）。

## サポート & サービス

本サーバの保守について説明します。

### 保証について

本サーバには、保証書が添付されています。保証書の記載内容をご確認の上、大切に保管してください。

保証期間中に故障が発生した場合には、保証書の記載内容に基づき無償修理いたします。

詳細については、保証書をご覧ください。

### 保守サービスについて

#### ■企業ユーザー向けサイト AzbyEnterprise について

AzbyEnterprise では、お客様を対象にした会員サービスを提供しております（入会無料）。

本サービスは、PRIMERGY、CELSIUS、FMV をお使いのお客様の運用に有効な詳細技術情報やサポート情報、ソリューション情報を提供しております。

また、新着情報やセミナー情報等をお知らせするメールサービスを提供しております。

会員サービスについては、以下をご参照ください。

<http://www.fmworld.net/biz/enterprise/>

皆様のご入会を、心よりお待ちしております。

#### ■無償修理

本サーバは、保証書に記載された無償修理期間には、無償にて訪問修理を行っています。

無償修理期間外の修理のご相談は、担当営業員または担当保守員に連絡してください。

無償修理に際しては、保証書を必ずご用意ください。

なお、お客様登録をされた場合とされない場合とでは、無償修理期間が以下のとおり異なります。

- ・お客様登録をされた場合  
ご購入後 1 年間
- ・お客様登録をされない場合  
ご購入後 3 か月間

#### ■保守サポート期間について

保守サポート期間は、お客様のサーバご購入後 5 年間です。

## ■ 定期交換部品について

お客様の使用環境や使用時間により、サーバの一部の部品で保守サポート期間内に、交換が必要となる定期交換部品があります。

導入時より SupportDesk 契約またはハードウェア保守契約の定期保守契約を結ばれたお客様においては、定期交換部品の交換費用（交換部品代および交換作業代）はサービス料金に含まれており、優先的に交換いたします。なお、SupportDesk 契約が未契約、ハードウェア保守契約が定額訪問契約、またはハードウェア保守契約が未契約のお客様には、別途ご請求させていただきます。

### POINT

- ▶ 本サーバでは、システムの安定稼働を目的に、保守サービス契約を結ばれることを推奨しております。  
下記の定期交換部品の交換時期については、以下を参考にしてください。

#### ● 定期交換部品の交換時期

定期交換部品の交換周期は、いずれも適切な使用環境下での運用を前提としています。

動作保証範囲は 10 ～ 35℃ ですが、交換時期は平均使用温度 25℃ での運用を想定しており、空調のある常温で使用してください。

#### ● 定期交換部品

##### ・ 電源ユニット

本サーバには最大 2 個あり、交換が必要です。

24 時間／日運転では約 3 年間を経過すると交換時期となります。10 時間以内／日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

##### ・ 冷却ファンユニット

本サーバには 2 個あり、すべて交換が必要です。

24 時間／日運転では約 3 年間を経過すると交換時期となります。10 時間以内／日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

#### ● 定期交換部品の交換時期の表示

部品の交換を促すメッセージをマネジメントブレードのイベントログに記録することができます。また、以下の通知方法があります。

- ・ SNMP トラップを使用してメッセージを通知する
- ・ アラームハンドラの機能を使用して電子メールで通知する

詳細は『ハードウェアガイド シャーシ編 6.5 定期交換部品について』を参照してください。

メッセージは、数か月以内に交換を促すおおよその目安を示しています。メッセージが表示されたら保守サービス窓口にご連絡ください。

## 修理ご依頼の前に

本サーバに異常が発生した場合は、『トラブルシューティング』を参照してください。それでも解決できない異常については、担当営業員または担当保守員に連絡してください。

なお、修理のご依頼前に、『ハードウェアガイド シャーシ編 5.4 保守員に連絡するときは』をご覧ください、修理ご依頼前の確認事項について、ご確認をお願いいたします。

# リサイクルについて

## ■サーバ本体の廃棄について

本サーバを廃却する場合、担当営業員または担当保守員に相談してください。本サーバは産業廃棄物として処理する必要があります。

なお、サーバを使用していた状態のまま廃棄すると、ハードディスク内の情報を第三者に見られてしまうおそれがあります。廃棄するときは、すべてのドライブをフォーマットすることをお勧めします。

ただし、フォーマットやファイルを削除しただけでは、悪意を持った第三者によってデータが復元されるおそれがあります。機密情報や見られたくない情報を保存していた場合には、市販のデータ消去ソフトなどを利用するか、または、弊社の「データ完全消去サービス」（有償）を利用し、オンラインでデータを消去し、復元されないようにすることをお勧めします。「データ完全消去サービス」については、「ストレージ統合サービス紹介サイト」(<http://storage-system.fujitsu.com/jp/service/>)を参照してください。

## ■使用済電池の廃却について

使用済電池を廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社に処分を委託してください。

## ■液晶ディスプレイの廃棄について

液晶ディスプレイを廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社に処分を委託する必要があります。

# コンフィグレーションシート

本サーバにおけるハードウェアの構成と各種セットアップの設定値を記録しておきます。  
 選択設定箇所については□マークのチェックボックスを用意しておりますので、設定したチェックボックスを塗りつぶすか、またレ印を付けておきます。

## ハードウェア構成

### 電源ユニット

搭載位置	電源ユニット (型名)
スロット 1	■標準搭載
スロット 2	□ (                    )

### マネジメントブレード

搭載位置	マネジメントブレード (型名)
スロット 1	■標準搭載
スロット 2	□ (                    )

### スイッチブレード

搭載位置	スイッチブレード (型名)
スロット 1	■標準搭載
スロット 2	□ (                    )
スロット 3	□ (                    )
スロット 4	□ (                    )

### サーバブレード

搭載位置	サーバブレード (型名)	メモリ			ハードディスク			
		メモリスロット 1			メモリスロット 2			ベイ 1      ベイ 2
スロット 1	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 2	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 3	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 4	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 5	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 6	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 7	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 8	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 9	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 10	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 11	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 12	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 13	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 14	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 15	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 16	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 17	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 18	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 19	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB
スロット 20	□ (                    )	□256MB	□512MB	□1GB	□256MB	□512MB	□1GB	□20GB   □40GB

# BIOS セットアップ項目

各メニューの詳細なマークは、次を示します。マークを以下に示します。  
サーバブレードの枚数に応じて以下をコピーして記録してください。

□：設定項目    ◎：ご購入時設定値    ■変更禁止

●サーバブレードスロット番号（        ）

## ■Main メニュー

BIOS Version
BIOS の版数を表示
BMC F/W Version
BMC ファームウェアの版数を表示
System Time
現在の時刻
System Date
現在の日付
Sync RTC with Mgmt. Blade
<input type="checkbox"/> Disabled    ◎ Enabled
System Memory
1MB 以下の使用可能なシステムメモリを表示
Extended Memory
1MB 以上のメモリサイズを表示
Extended Memory Test (BIOS 版数 3DXX 以降のみ)
<input type="checkbox"/> Disabled    ■ Enabled

## ■Advanced メニュー

Multiprocessor Spec
<input type="checkbox"/> 1.1    ◎ 1.4
Reset Configuration Data
<input type="checkbox"/> Yes    ◎ No
Summary Screen
<input type="checkbox"/> Disabled    ◎ Enabled
Quiet Boot
■ Disabled <input type="checkbox"/> Enabled
Server Management
【Enter】
OS Boot Watchdog Timer
◎ Disabled <input type="checkbox"/> Enabled
Timer Count Down Value
<input type="checkbox"/> 2 Minutes <input type="checkbox"/> 5 Minutes    ◎ 10 Minutes
<input type="checkbox"/> 15 Minutes <input type="checkbox"/> 20 Minutes <input type="checkbox"/> 30 Minutes
<input type="checkbox"/> 60 Minutes <input type="checkbox"/> 100 Minutes
Timer Timeout Action
<input type="checkbox"/> No Action    ◎ Reset <input type="checkbox"/> Power Off
<input type="checkbox"/> Power Cycle
Boot Retry Counter
<input type="checkbox"/> No Retry <input type="checkbox"/> Retry 1 time <input type="checkbox"/> Retry 2 times
◎ Retry 3 times <input type="checkbox"/> Retry 4 times
<input type="checkbox"/> Retry 5 times <input type="checkbox"/> Retry 6 times
<input type="checkbox"/> Retry 7 times
ASR&R Boot Delay (Minutes)
◎ 2 <input type="checkbox"/> 0 ~ 30
Console Redirection
【Enter】
Com Port Address
<input type="checkbox"/> Disabled    ■ On-board COM A
Console Type
■ VT 100 <input type="checkbox"/> VT 100, 8bit <input type="checkbox"/> PC-ANSI, 7bit
<input type="checkbox"/> PC ANSI <input type="checkbox"/> VT 100+ <input type="checkbox"/> VT-UTF 8
Flow Control
◎ XON/XOFF
Continue C.R. after POST
◎ Off <input type="checkbox"/> On
Advanced Chipset Control
【Enter】
ECC Config
<input type="checkbox"/> Disabled    ■ Enabled
USB BIOS Legacy Support
<input type="checkbox"/> Disabled    ■ Enabled
USB Host Controller
<input type="checkbox"/> Disabled    ■ Enabled
I/O Device Configuration
【Enter】
Serial port A
<input type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> Enabled    ■ Auto

## ■Security メニュー

Supervisor Password Is
<input type="checkbox"/> Clear <input type="checkbox"/> Set
User Password Is
<input type="checkbox"/> Clear <input type="checkbox"/> Set
Set Supervisor Password
Supervisor パスワードを設定
Set User Password
User パスワードを設定
Clear All Passwords
設定されたすべてのパスワードを消去
Clear User Password
User パスワードを消去
Password on Boot
◎ Disabled <input type="checkbox"/> Enabled

## ■Power メニュー

APM 1.2 Interface
◎ Disabled <input type="checkbox"/> Enabled
After Power Failure
<input type="checkbox"/> Stay Off    ◎ Last State <input type="checkbox"/> Power On

## ■Boot メニュー

(ブート順を記入)
<input type="checkbox"/> Removable Device
<input type="checkbox"/> CD-ROM Drive
<input type="checkbox"/> Hard Drive
<input type="checkbox"/> Broadcom MBA 1
<input type="checkbox"/> Broadcom MBA 2



FastBuild ユーティリティ

各メニューの詳細なマークは、次を示します。マークを以下に示します。  
サーバブレードの枚数に応じて以下をコピーして記録してください。  
□：設定項目    ◎：ご購入時設定値    ■変更禁止

■Controller Configuration メニュー

Adapter Configuration - Options

Halt On Error

☐ Enabled    ◎ Disabled

System Resources Configuration

Interrupt

各チャンネルに割り当てられた IRQ を表示

I/O Port

各チャンネルに割り当てられた I/O Port アドレスを表示

システム資源管理表

I/O ポートアドレスは、以下の表のとおりです。

■I/O ポートアドレス

品名	I/Oポートアドレス (h)																設定方法
	100	140	180	1C0	200	240	280	2C0	300	340	380	3C0	400				
シリアルポート																	BIOSセットアップ

- \* □ □ は、選択できるI/Oポートアドレス空間を示します。
- はそのマークが重なる目盛のアドレスから16バイトまたは16バイト内の一部の空間を使用します。  
( ■ はデフォルトで選択されている空間 )
  - はそのマークが重なる目盛のアドレスから32バイトまたは32バイト内の一部の空間を使用します。  
( ■ はデフォルトで選択されている空間 )

RAID 設計シート

■ハードディスクの搭載位置と設定

搭載ハードディスクベイ	ハードディスク 搭載の有無	チャンネル ( 固定 )	Master/Slave ( 固定 )	ハードディスク の容量 ( 固定 )
ベイ1	標準搭載	Primary	Master	20GB・40GB
ベイ2	標準搭載	Secondary	Master	20GB・40GB

■フィジカルパックの定義

ハードディスクの 設定 ( Master/Slave )	Primaryチャンネル	Secondaryチャンネル
Master		

■システムパックの定義

システムドライブNo.	RAIDレベル	容量
1	0・1	(     ) GB
2	0・1	(     ) GB

( 記入例1 )

システムドライブNo.	RAIDレベル	容量
1	0 ①	(   20   ) GB

# 使用許諾契約書

## 使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本サーバにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

## ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権  
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本サーバでのみ使用できます。なお、お客様は本サーバのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ  
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み  
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製  
(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。  
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。  
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。  
(2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡  
お客様が本ソフトウェア（本サーバに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合、本ソフトウェアがインストールされたサーバとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本サーバに添付されている媒体を本サーバとは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等  
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 保証の範囲  
(1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本サーバをご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。  
また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本サーバをご購入いただいた日から 1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。  
(2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。  
(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記 (1) の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
8. ハイセイフティ  
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

PRIMERGY BX300

はじめにお読みください

B7FH-1551-01-00

発行日 2003 年 6 月

発行責任 富士通株式会社

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

FUJITSU